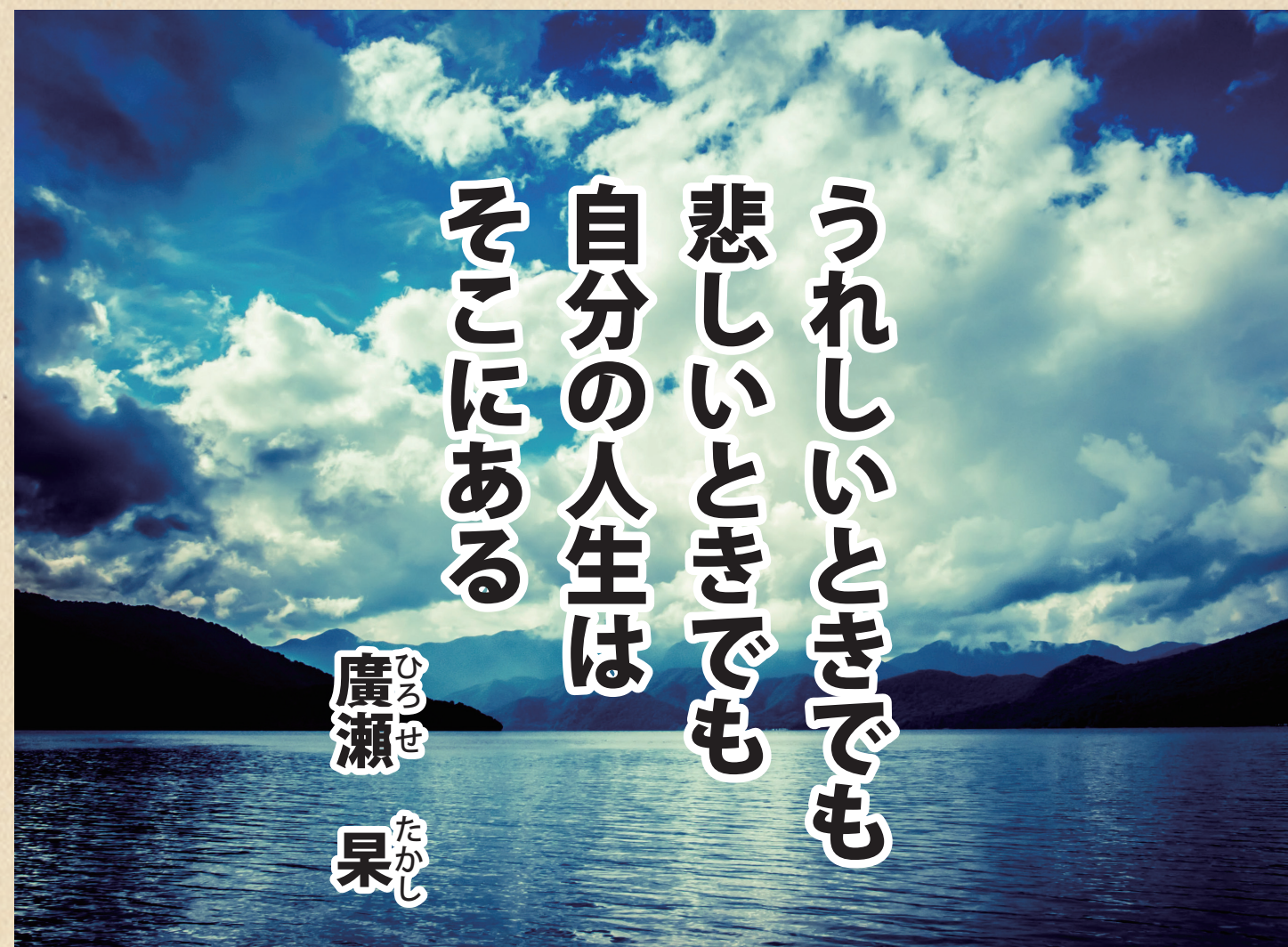


大阪教区第 21 組

われら推進員

2018/5 発行
第 7 号

真宗大谷派 大阪教区
第 21 組 教化委員会
事務局 堺市西区草部 79 以速寺
TEL 072-275-0339



ひろせ
たかし
廣瀬 果

第 38 回夏季仏教講座のご案内

☆日 時 7 月 3 日 (火) *開場*午後 2 時
午後 2 時 30 分～午後 4 時 30 分

☆会 場 堺市産業振興センター (旧じばしん)
☆講 師 三明智彰 先生 九州大谷短期大学 学長
☆講 題 「現代人の忘れ物 ～人間となる 恩～」

★詳しくは同封の開催要項をご参照ください。
★お寺ごとに参加人数を集計します。



★ご出欠を所属寺にご連絡ください★

●「全推進員の集い」に参加して●

四月十五日 (日) 難波別院本堂は満席でした。宮浦一郎教務所長の挨拶に続いては意見発表です。最初は「大阪教区同朋の会推進員連絡協議会」(大推協)の細川克彦代表です。昨年八月一日に発足した協議会の活動を説明され、ご理解ご協力をお願いされました。続いては、紹隆寺住職の喜左上恵子さんです。十年前にお父さんが亡くなり女性住職となりました。本山の女性住職の集いに参加して貴重な出会いもあったそうですが「『同朋の会』を開催したら」という呼びかけを受けて、初めて学びが自分自身の問題になっていないことに気がつかったそうです。今後は、皆さんが気兼ねなく来れるようなお寺にしたいと話されていました。

次の二十組北山義昭さんは、ご自身の結婚式が仏滅であつても気にかけません。「交通事故死よりも自殺が多い昨今は、家族が出かけるとき『事故よりも、自殺に気をつけて。答えはお寺で聞法すればわかるから』と声をかけよう」というお話が印象的でした。講義は、第二組の藤井善隆先生です。三帰依文のお話から始まり、「私たちは自分の都合どおり成れば良い、成らなければ悪いと感じる」と。そして先生は、白板に良い悪いに相対する*印の線を引かれ、ミを加えて「これが迷い」と指摘されました。

続いて善導大師の「二河白道」のお話です。「西に向かって行く人の前に河あり、南に火の河、北に水の河、この河の間に幅四・五寸の白い道がある。後ろには群賊悪獣がせまりくる。引き返せば死、立ち止まっても死、前に進んでも死、これを三定死と言ひ、この人は『いずれも死なら既に道がある前に進もう』と決心する。すると突然、東の岸からお釈迦様の進めという声、西の岸より来たれという阿弥様の声が聞こえた」という人生のたとえ話です。私は、思わず自分の歩みを思い返しました。

この後の質疑応答も含めたいへん意義深い「集い」となりました。

松本喜久雄 (推進員 南通寺所属)

あとがき

今回は「推進員の集い」の澤田秀丸先生のお話を、本誌推進員スタッフが座談会を開いて、振り返ってみました。

最初に問題になったのは「私の価値って何？」ということでした。

先生は「全てのものには価値があります。石の価値は重さ。だから、お葬式でハリボテの石を使っても虚しいだけですよ。老人には老人の、そのままでの価値があるのです。」とおっしゃいます。ここでの価値とは、見た目でも、能力や成果でもないでしょう。

とはいっても、世の中は「役に立つか、立たないか」で、随分色分けされている気もします。

仏様の教えは、私たちの生活に密着し、決して綺麗事では無いはずですが、でも、なかなか「全てのものには価値がある」という言葉に、頷けない私がいいます。皆様はいかがでしょうか、また感想などを教えていただけると幸いです。

なお今回の先生のお話を、冊子にまとめ、秋にはお届けを予定しています。どうぞ、本誌と重ねてご一読いただければと存じます。

事務局 山雄 竜庵

はじめに

日頃は、何かと宗門興隆にご協力、ご尽力賜り有難うございます。また、推進員としての活動に深く感謝申し上げます。

今年は、三回目となる推進員養成講座が行われ、新たな推進員を迎える事となりました。

現在の日本人は、子どもの頃から宗教に触れてこられた方が非常に少なく、なっているように思えます。かなり年配の方でも、大切な人との別れをおして初めて真宗の教え(仏教)に触れたという方も珍しくありません。

この様な状況の中、皆様にはひとりでも多くの方々に、我々一人ひとり「だれとも比べることのできない尊い生命」をいただき、お互い違った価値観(ものさし)を持ち、そのことを認め合っていくことを教えてくださった仏様のお心を伝えて頂ければと思います。

昨今、価値観の違いによる争いごとが絶えない世の中に成ってきたと思います。こんな時代だからこそ皆様の活躍が益々期待されると思います。よろしくお願い申し上げます。

副組長 菱田 眞英